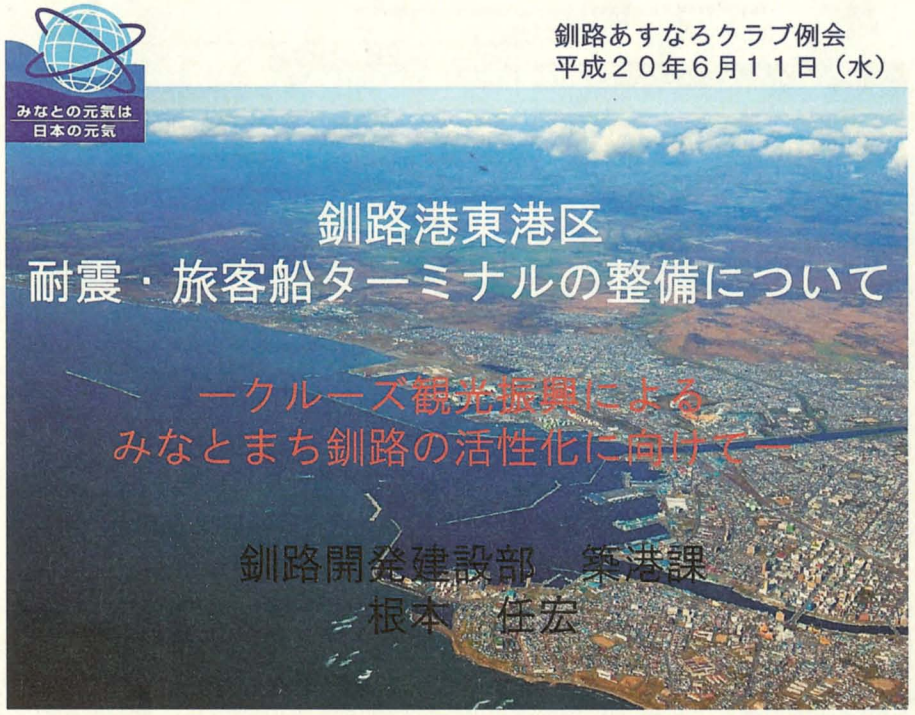


1.

①『耐震』

②『旅客船ターミナル』

の整備目的

釧路港の地震災害履歴

平成5年（1993年）
釧路沖地震

東港区北埠頭岸壁
岸壁、エプロンの崩壊

平成6年（1994年）
北海道東方沖地震

東港区副港地区-7.5m岸壁
エプロンの沈下、崩壊

平成15年（2003年）
十勝沖地震

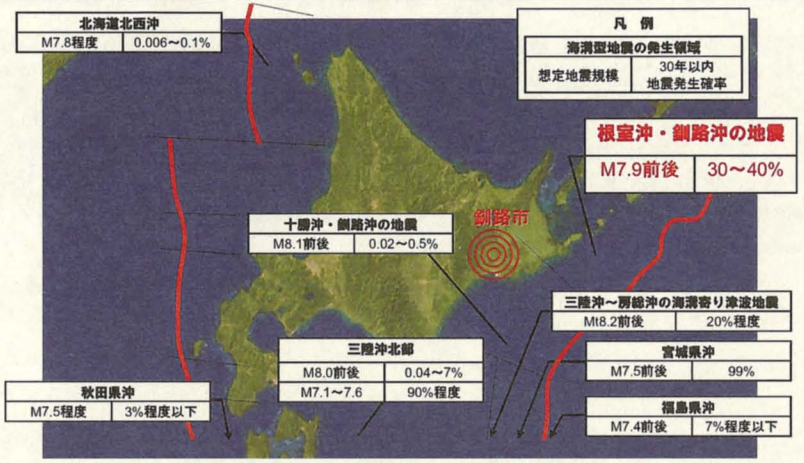
東港区副港地区-7.0m岸壁
エプロンの沈下、崩壊

釧路地域の地震災害履歴

		平成5年1月15日 釧路沖地震	平成6年10月4日 北海道東方沖地震	平成15年9月26日 十勝沖地震
地震規模		M7.8(釧路市 震度6)	M8.1(釧路市 震度6)	M8.0(釧路市 震度5強)
被害範囲		釧路、十勝支庁管内を中心に北海道99市町村及び青森県の一部	根室支庁管内を中心とした地域に大きな被害	北海道東部、南部及び東北地方北部に大きな被害
道内の被害額 (うち、釧路支庁)		530億円 (410億円)	573億円 (150億円)	263億円 (75億円)
道内の人的被害 (うち、釧路支庁)	死者	1名(1名)	0名(0名)	0名(0名)
	行方不明者	0名(0名)	0名(0名)	2名(2名)
	重軽傷者	927名(708名)	436名(165名)	847名(309名)
道内の住宅被害 (うち、釧路支庁)	全壊	44棟(44棟)	61棟(23棟)	116棟(3棟)
	半壊	155棟(133棟)	348棟(46棟)	368棟(254棟)
	一部破損	14,649棟(3,292棟)	21,816棟(1,525棟)	1,580棟(532棟)

今後想定される大規模地震（内閣府 H17.4.13）

■内閣府『地震調査研究推進本部 地震調査委員会』は、「全国を概観した地震動予測地図 報告書」において海溝型地震の発生領域の評価を行っており、その中で長期的な地震発生確率の評価を実施している。
⇒大規模地震が発生する可能性が高い⇒大規模地震への対応が必要



資料：地震調査研究推進本部ホームページより作成（http//www.jishin.go.jp）

安全・安心で質の高い食産業を支える役割－酪農業

◇釧路港から関東に向けて、牛乳1ℓパックに換算して1億5700万本分、毎日43万本分の生乳が日々供給されています。
◇東北海道からの本州向け生乳のうち6割を、釧路港の定期航路により輸送しています。

東北海道の酪農業

釧 路 港

1ℓパック43万本分の生乳

釧路港を通じて日々供給

関東の乳製品工場
↓
消費者の食卓へ

毎日運航のRORO船定期航路による安定輸送
（年間350隻以上）

出典 H18牛乳乳製品統計（農林水産省）（飲用向け生乳処理量1に対し、飲用牛乳の生産量は0.892）

地場の基幹産業を支える役割－紙パルプ産業

◇全国の約1割、650万世帯の購読分に相当する新聞用紙が、釧路港を通じて供給されています。

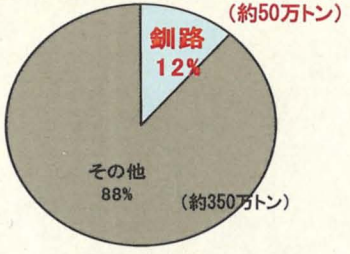
釧路市の紙パルプ産業

釧 路 港

新聞用紙、ダンボール原紙など

釧路港を通じて供給

国内：関東、関西、中部へ
海外：アジア各地へ



新聞用紙の生産シェア

出典 新聞用紙の全国生産量：日本新聞協会HP

命と健康を支える役割－製薬・飲料産業

◇年間約1億本の点滴製剤が釧路港を通じて、全国の病院・患者のもとへ届けられています。

◇年間約1.5億本の清涼飲料水が釧路港を通じて、東日本一円へ届けられています。

市内の製薬工場
点滴製剤の国内トップシェア企業

シェア約4割

市内の飲料工場
清涼飲料水

釧路工場のみで生産している製品があるため、全国の患者に確実に届けられる安定輸送が不可欠

釧 路 港

製品の9割以上を釧路港から

釧 路 港

製品の約6割を釧路港から輸送

全国の病院・患者のもとへ

コンテナ船やRORO船
定期航路による安定輸送

東日本一円へ

写真提供：大塚食品(株)釧路工場

出典 企業ヒアリングより釧路港湾事務所

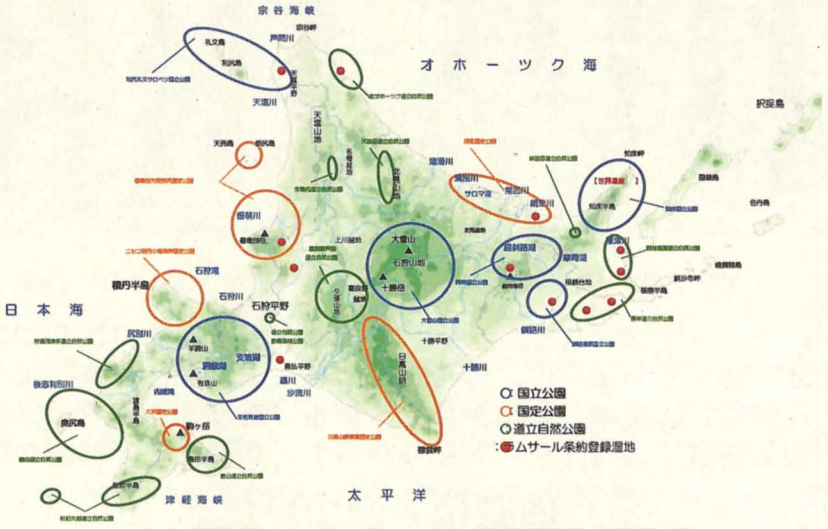
2．北海道のみなと観光振興の視点

『耐震』の目的

- 地域の基幹産業を支えるため！
- 命と健康を支えるため！
- 緊急物資の受け入れ拠点！

自然公園等の指定状況

北海道の自然公園は国立公園は６か所（全国は２９か所）、国定公園は５か所（全国は５６か所）、道立自然公園は１２か所が指

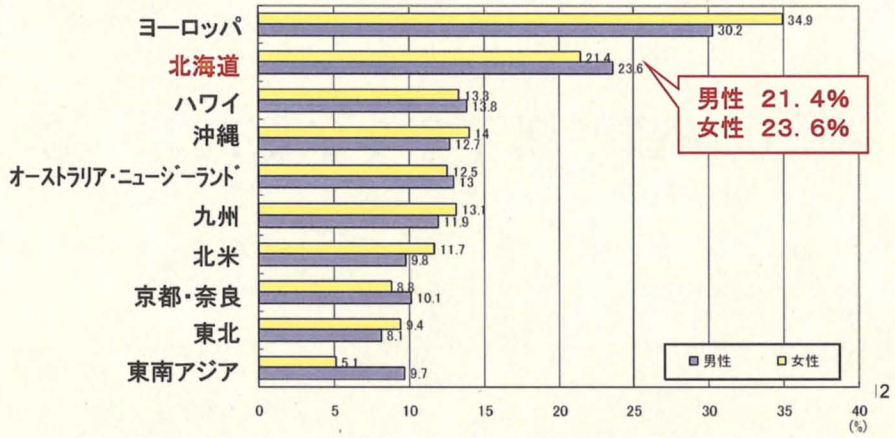


出典 北海道環境白書'06より北海道局で作成

高まる北海道人気

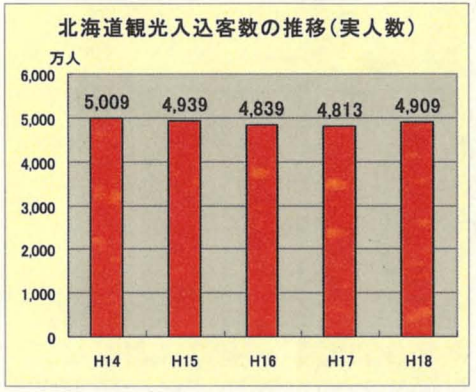
団塊世代が平成１９年以降に６０代を迎え、退職後の旅行需要が期待されている中で、「退職記念旅行」は５０％強が予定しており、行きたい方面として、ヨーロッパに次いで北海道と答えた人が多い。

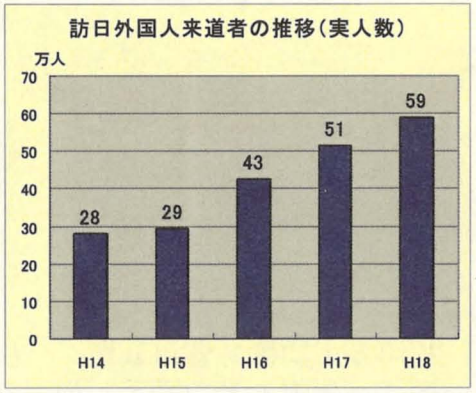
「退職記念旅行」で行きたい方面（複数回答）　※ＪＴＢ「６０歳以降の仕事と旅行に関する調査」(H19.3)



北海道の観光の動向

北海道の観光入込客数は、４９０９万人（うち外国人観光客は５９万人）となっており、平成１４年度以降、総数では低迷しているが、東アジアやオーストラリアなどからの外国人観光客は順調に増加している。

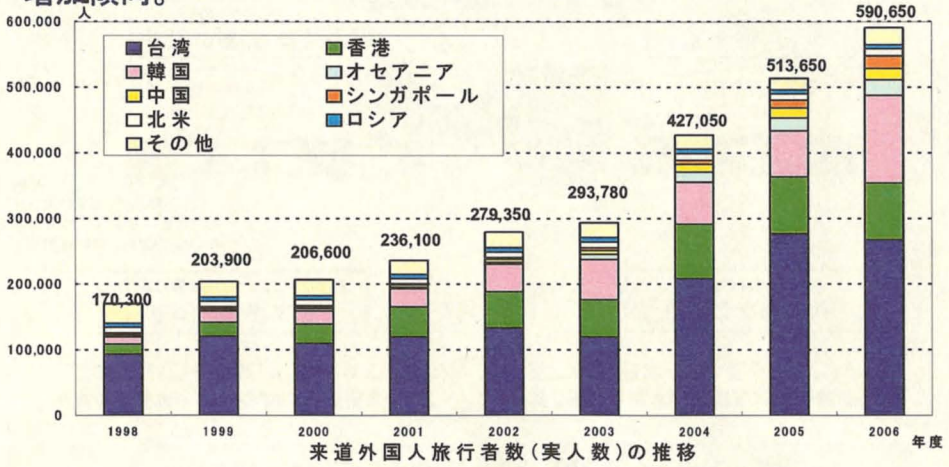




※平成１８年度　北海道観光客入込客数調査報告書

地域別・来道外国人観光客の推移（実人数）

訪日外国人来道客数は、近年、大幅に増加（平成１８年度：５９万人、平成１０年度の約３．５倍）。地域別に見ると、アジアが多く、約９割を占める。特に台湾は、全体の約５割を占め、増加傾向。



来道外国人旅行者数（実人数）の推移

出典　北海道経済部観光のくにづくり推進局・北海道観光入込客数調査報告書

北海道の観光地と観光入込客数

港が所在する小樽、函館、釧路への観光入込客数は道内ランキング上位に位置づけられている。

※表の色付は港湾所在市町村

※平成１８年度　北海道観光入込客数調査報告書

順位	市町村名	入込客数	前年度比
1	札幌市（定山渓除く）	1,167万人	104.9%
2	小樽市	770万人	101.8%
3	旭川市	698万人	123.6%
4	函館市	486万人	100.4%
5	千歳市	430万人	99.0%
6	釧路市	398万人	98.1%
7	洞爺湖市	321万人	77.9%
8	登別市	309万人	100.5%
9	喜茂別市	299万人	95.4%
10	帯広市	259万人	107.5%
11	上川町	256万人	100.7%
12	札幌市（定山渓）	244万人	110.9%
13	富良野市	211万人	101.8%
14	七飯町	209万人	101.0%
15	砂川市	197万人	141.9%
16	白老町	189万人	102.2%
17	壮瞥町	176万人	97.8%
18	石狩市	173万人	99.5%
19	伊達市	170万人	97.4%
20	網走市	168万人	93.6%

北海道観光産業の経済波及効果

北海道における観光は、食にかかわる産業を始め他の産業分野の雇用を創出する等波及効果が大きい。
道内経済に占める観光消費による経済効果の大きさ（「道内総生産」に占める「観光消費により道内各産業に誘発された所得」の割合）をみると、約６％。

道内経済に占める観光消費による経済効果の大きさ

平成15年度 道内総生産（GDP）	観光消費による 所得形成効果	対道内総生産比	前回調査時の 対道内総生産比
195,044億円	11,419億円	5.9%	5.4%

注）平成15年度道内総生産は「平成15年度道民経済計算年報」（平成17年12月公表）の数値。

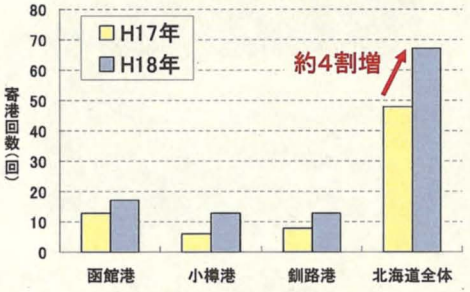
参考）平成15年度道内総生産（名目）19兆6775億円
うち農業　4895億円（構成比2．5%）
製造業　1兆9246億円（構成比9．8%）
建設業　1兆7854億円（構成比9．1%）

北海道におけるクルーズ船入港実績

平成１８年のクルーズ船入港実績は平成１７年と比べて約４割増の６７回（うち外航船２５回、内航船４２回）となっている。

1）北海道クルーズ振興協議会における取り組み

北海道開発局、運輸局、港湾管理者、港湾振興会、民間事業者等からなる「北海道クルーズ振興協議会」において、道内港を起点としたフライ＆クルーズの実現、シンポジウムなどの具体的なプロモーション活動の推進、寄港促進に有効なキーパーソンの招致などを行っている。（H15～）



クルーズ船入港実績

※北海道開発局港湾計画課調べ

北海道みなとを活用した観光交流の促進

個々の観光地はポテンシャルが高いため、互いの連携による相乗効果が期待される。

観光交流空間形成のためのポイント

①　「みなと」と「みなと」の連携
クルーズ船、フェリー等による「みなと」から「みなと」への観光客の呼び込み

②　「みなと」と「陸」の連携
周辺の「陸」側観光地から「みなと」への観光客の呼び込み

③　本州やロシア等との連携
青森函館間の高速フェリーを活用した本州からの観光客の呼び込みや、クルーズ船、フェリー等を活用したロシア等からの観光客の呼び込み

①　「みなと」と「みなと」の連携

北海道の港を起点港とし、飛行機で道内へ来訪した観光客をクルーズ客船で効率的に道内有数の観光地を巡る『飛んでクルーズ北海道』を平成１８年に引き続き実施し、約１５００人が参加。（商船三井客船とＪＴＢ北海道の共同企画。北海道クルーズ振興協議会のバックアップ。）

平成19年は前年より運航回数と運航期間を拡大して8月下旬から9月中旬までの間に就航予定。さらに東アジア圏へのマーケットの拡大も検討中。

「飛んでクルーズ北海道」のポイント

- 公共交通機関や貸し切りバスでは不可能な魅力的ルーティングを実現
- ピークシーズンのホテルとして利用
- 2泊3日の日程で、港町・小樽、海の幸満載の利尻・礼文、世界遺産・知床を船上からの絶景も含めて楽しむことができる
- 廉価なクルーズ代金の設定により参加しやすいクルーズの実現（5日間、 6万6千円～47万2千円）

②　「みなと」と「陸地」の連携

周辺には有名な観光地が多く存在し、これらと連携することで周辺の港への来訪も期待できる。

- ニセコに訪れるオーストラリア人観光客は約７３，０００人（Ｈ１７）
- 世界遺産の知床には、冬季入込客数が１００万人超（Ｈ１７）
- 日本最大の湿原である釧路湿原は観光地としても有名
- ２００８年７月の北海道洞爺湖サミットの会場となるホテルには、サミット会場決定後から多くの観光客らが詰めかけて混雑するなど、サミット効果が期待されている。

ニセコ山系
（ニセコ、小樽港）

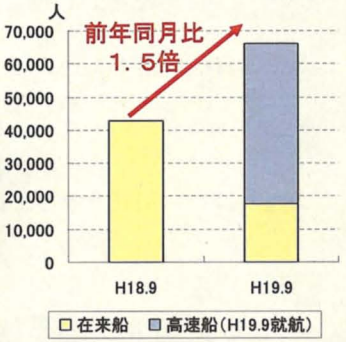
世界遺産　知床
（知床、網走港）

日本最大の湿原
釧路湿原
（釧路、釧路港）

２００８年サミット会場
洞爺湖
（室蘭、室蘭港）

③　本州やロシア等との連携

平成１９年９月に青森～函館間の高速フェリーが就航し、所要時間が従来の３時間４０分から１時間４５分に短縮され、二都市の交流が活発化しており、本州とのさらなる観光面での連携強化が必要。



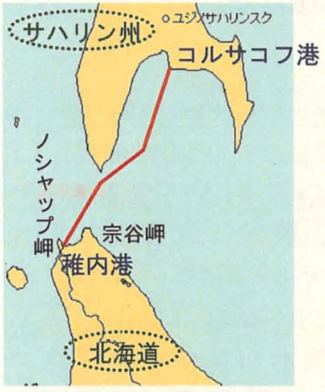
青森～函館間フェリーの旅客

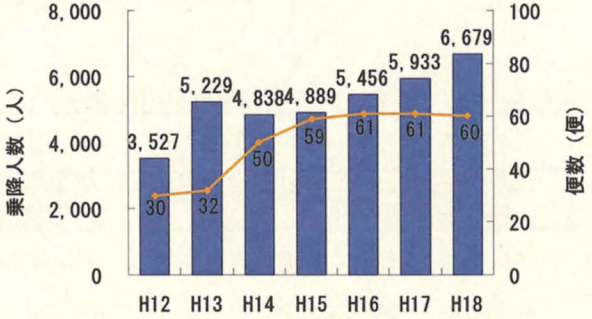
※東北運輸局調べ

北海道と青森県の連携：　青函広域観光推進協議会
北海道（特に道南）と青森県の観光を振興するために共同宣伝事業、広域観光ルートの設定など、青函広域の観光事業を強力に推進することを目的に、平成4年に創設されている。

日ロフェリー定期航路の状況

稚内～コルサコフ間にフェリー定期航路が就航しており、平成１８年度の乗降人数は過去最高となっている。





稚内～ｺﾙｻｺﾌ定期ﾌｪﾘｰの旅客推移　※5月～10月のみ運行

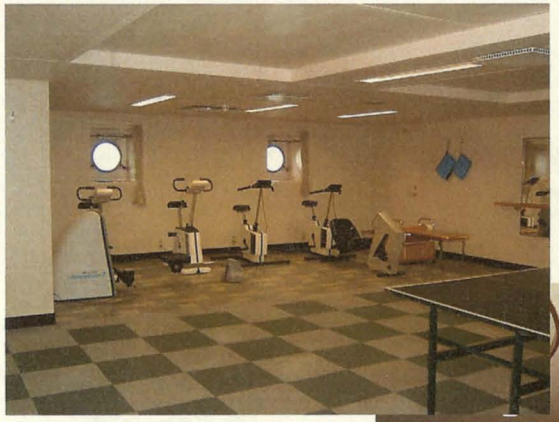
※北海道開発局港湾計画課調べ

日本の主なクルーズ船

ふじ丸体験乗船（釧路港⇒十勝港）H15.7

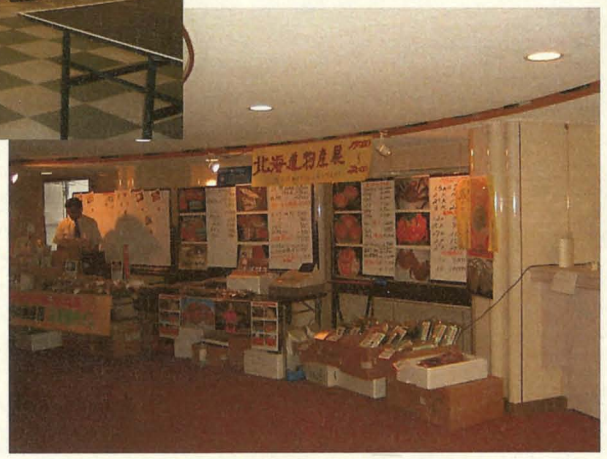
←夕食後のショー

↓ダンスタイム



←アスレチックルーム

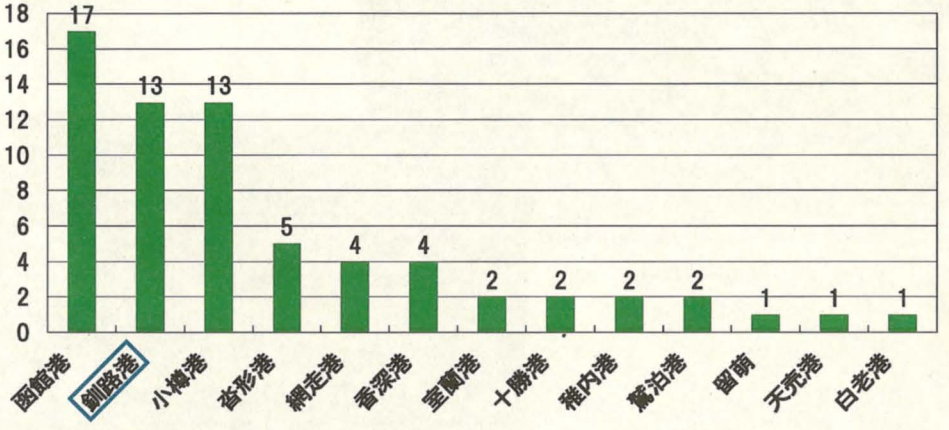
↓特産品の物販



3．釧路港におけるクルーズ観光振興

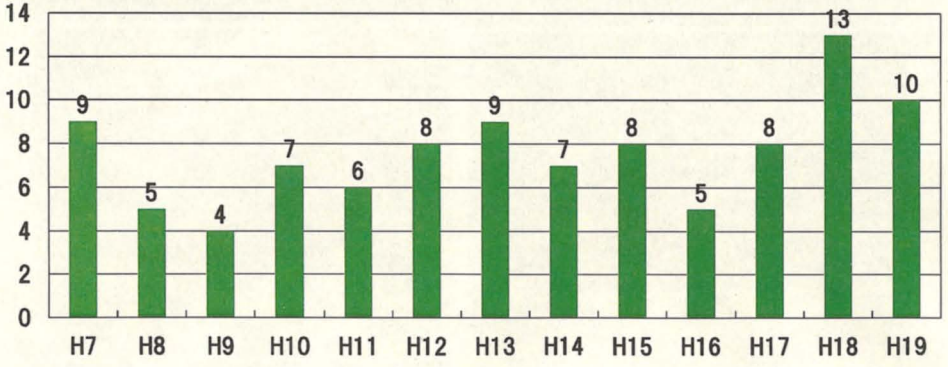
道内・港別・クルーズ船寄港実績(H18年)

背後圏に北海道特有の観光資源がある函館港、釧路港、小樽港での寄港実績が多い。



釧路港のクルーズ船寄港実績の推移

釧路港を拠点に、国立公園「釧路湿原」、「阿寒」の雄大な自然や特別天然記念物「丹頂」、「阿寒湖のマリモ」等魅力ある地域資源を楽しむクルーズ観光が増加。



釧路港の観光交流機能の現状と課題

釧路に寄港するクルーズ船は、倉庫群が立地する中央埠頭の岸壁（水深−10m）を利用せざる得ない状況。**⇒新ターミナルの整備が必要**

課題

釧路港東港区

漁船と旅客船の輻輳

物流と観光交流の輻輳

船上デッキからの眺望
（倉庫の屋根が見える）

耐震旅客船岸壁整備事業の概要

○事　業　名　:釧路港東港区耐震・旅客船ターミナル

○事業の目的:

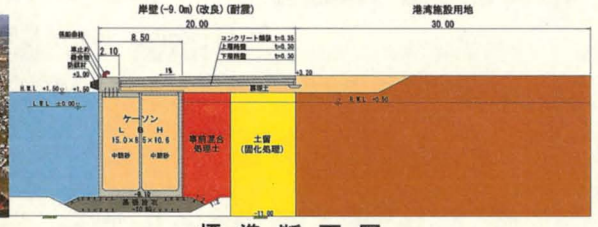
近年の釧路港におけるクルージング需要の増加に対応した旅客船ターミナルを整備し、隣接する観光交流施設と一体的な賑わい空間を創出することで、釧路地域の観光・交流活動を推進するものである。また、本ターミナルは耐震機能も兼ね備えており、災害時には臨海部防災拠点として災害復旧活動を支援することで、釧路地域　26万人のくらしや産業活動を支えることを目的としている。

○整備内容:

岸壁(-9.0m)(改良)(耐震)1バース(310m)、泊地(-9.0m)12.4ha、港湾施設用地1.0ha、緑地、道路

○整備着手時期:平成18年度

耐震・旅客船ターミナル位置図



標　準　断　面　図

クルーズ船寄港による経済効果

クルーズ船が釧路港に1回入港すると1～2千万円の経済効果

クルーズ船が入港すると、乗客や乗員の飲食、買い物を始め、オプショナルツアー、入出港に伴う諸経費など、地域経済に効果。

飛鳥Ⅱ→2,245万円

8/21寄港
○乗客約750名　○乗員約340名
○オプショナルツアー参加状況
延べ680名。バス20台。

ばしふぃっくびいなす→1,100万円

9/2～3寄港
○乗客約340名　○乗員約170名
○オプショナルツアー参加状況
延べ270名。バス13台

・飛鳥Ⅱは、日帰り停泊パターンでの効果を推計
・ばしふぃっくびいなすは、1泊2日停泊パターンでの効果を推計

上記の数字は、乗客による飲食、土産物等の消費、乗員による消費をアンケート等を基に推計したほか、入港料等の市への収入、曳船等の港湾事業者の収入を推計したものです。

○対象船舶

	通常時	災害時	
		緊急物資輸送	一般貨物輸送
船種	旅客船	貨物船2隻	RORO船
トン数	50,000GT	5,000DWT	13,000GT
全長	248m	109m	161m
全幅	32.3m	16.8m	26.6m
満載吃水	8.0m	6.5m	7.0m

旅客船(飛鳥Ⅱ)

RORO船

○想定地震:震度6弱程度に対応

	マグニチュード(M)
1993年釧路沖地震	7.8
根室沖・釧路沖の地震	8.3
十勝沖・釧路沖の地震	8.2
M6.5直下型地震	6.5

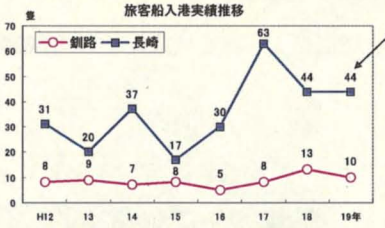
○イメージパース図

常時の利用

災害時の利用

長崎港並にクルーズ船入港隻数が増えるとその効果は10億円以上

旅客船誘致の取組が実り、入港隻数が増加すると、さまざまな産業へ効果が波及。

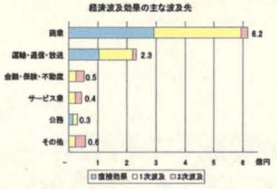


長崎港並みに勝数が成功すると・・・

経済波及効果
2.3億円

経済波及効果
10.3億円

※写真:国土交通省九州地方整備局長崎港湾・空港整備事務所HPより



※経済波及効果は、釧路港のH19入港実績、及び旅客船乗客、乗組員へのアンケートに基づき推計した直接効果を、平成10年北海道内地域間産業連関表(釧路・根室地域)(北海道開発局開発整理部開発計画課)を用いて波及効果を推計しています。

直接効果:　前ページに示した消費活動や運輸等の収入の額。ここでは、飛鳥Ⅱの事例より乗員や乗客単価を設定し、平成19年の入港した船それぞれについて定員や大きさを基に積算・推計しています。
1次波及:　旅客船入港に伴う消費活動や運輸等の収入に必要なモノやサービスを市内で購入する額
2次波及:　これらの活動の結果、得られたお金が雇用者を経由して消費される額

4. 耐震・旅客船ターミナル完成に向けた取り組み

①釧路港（釧路エリア）をいかに魅力的なみなと・寄港地にするか

②通常時（普段）いかに利活用するか（賑わい空間の創出）

③市民と共有する施設への育み

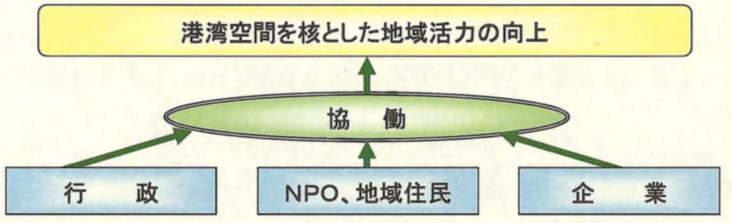
みなとまちづくりにおける新たな担い手

みなとにおけるにぎわい空間の創出については、行政による施設の整備・管理・運営から、**市民、企業と行政が連携した施設の整備・管理・運営**へ移行していくことが望まれる。

○ みなとに係わる役割

物流・産業関連施設の整備・管理		現状の役割	にぎわい空間の創出	
実施主体	国・港湾管理者	<- - ->	実施主体	NPO、地域住民
サポート	市町村等		サポート	国・港湾管理者、市町村

○ 理想的な“新たな担い手”としての協働イメージ



耐震・旅客船ターミナルの利用を考える会

まちづくりに貢献している市民団体等と、クルーズ船寄港時、地震発災時におけるターミナルの利用について膝詰めの議論を展開中。

「大型客船誘致を」

「考える会」官民で設立　活用へ意見交わす

釧路港中央埠頭の耐震旅客船ターミナルが来月着工されるのを機に、港の公共施設と市中心街を融合させたまちづくりを考えるグループが発足した。行政が呼びかけた形だが、市内のイベントなどに携わる人たちが参加。十月下旬に開いた初会合では、さっそくはらんな意見が交わされた。

グループの名称は「釧路港耐震旅客船ターミナルの利用を考える会」。釧路開建と市の職員計二人が、港湾施設の利用を促進するために呼びかけ、民間の六人と、行政の七人の計十三人が集まった。審議会といった正式な行政機関ではなく、手弁当で参加しているのが特徴だ。

初会合では、同ターミナルに大型客船が寄港するとから、客船誘致に年内にさらに二回会合を開く予定。会を呼びかけた釧路開建釧路港湾事務所の繁本護所長は「公共施設に魂を込めるのは、地域の人たち。まちづくりに熱い思いを持っている人の率直な意見を聞くため、あえて任意の集まりにした」と話している。

もっと力を入れるべきだといった意見が出た。港と北大通周辺を一体的に盛り上げる方策についても話し合った。

参加者の一人で、港近くの浪花町五の倉庫をイベントホールとして貸し出しているNPO法人「浪花町十六番倉庫」の永田敦子事務局長は「市民が集まりたくなるイベントを港の施設を活用して行えば、観光客も自然に集まり、周辺にも波及する」と指摘している。

検討会の開催状況

平成19年11月10日（土）
北海道新聞（朝刊）

耐震・旅客船ターミナルの利用を考える会 ﾒﾝﾊﾞｰ・検討趣旨

氏　名	所　属
飯田　壽彦　（朝木　忠行）	（社）釧路観光協会
金子　ゆかり	北海道建築士会釧路支部
側　千文	賑わいのみなとまちづくり懇談会
永田　敦子	NPO法人浪花町十六番倉庫
松井　聖治	（社）釧路青年会議所
宮田　昌利	まちとくらしネットワークフォーラム
村井　清二　（梶山　照秋）	釧路運輸支局
菊池　政幸	釧路市総務部総務課
海老名　正一	釧路市消防本部
塩　博文	釧路市経済部観光振興室
繁本　護　（上田　雅春）	釧路市土木港湾部
根本　任宏　（矢本　欽也）	釧路開発建設部築港課
吉田　義一　（繁本　護）	釧路開発建設部釧路港湾事務所

（昨年度のメンバー）　（敬称略）

検討会の趣旨

＊耐震・旅客船ターミナルの効率的・効果的な利用を実現するため、ハード・ソフト（演出）の具備条件を検討

↓

・利用コンセプト、利用形態を具体化
・賑わい空間の創出や中心市街地の活性化による地域振興を図る

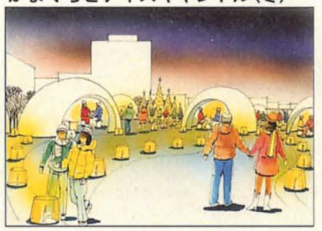
中心市街地の活性化に繋げる導線の確保

ターミナルの利活用策の検討

七夕イベント(夏)

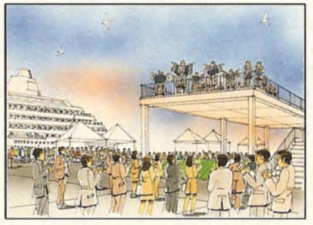
写生会の開催

かまくらとアイスキャンドル(冬)



企業対抗綱引き大会

デッキでの歓送迎イベント



ステージでのライブ

耐震・旅客船ターミナルのＣＧ（イメージの素材）

耐震・旅客船ターミナルのＣＧ（イメージの素材）

耐震・旅客船ターミナルのＣＧ（イメージの素材）

釧路港におけるクルーズ船のおもてなし

北海道くしろ蝦夷太鼓保存会

よしの幼稚園

ヒートボイス

ぱしふぃっくびいなす　お見送り

他港のおもてなしの取り組み事例

	長崎港	大船渡港	青森港	その他港湾
写真				
歓送迎時のおもてなし	・地元の食材の提供 ・地元文化の舞踊の披露 ・小中高生ブラスバンドの演奏 ・市の消防艇の出迎え	・旅客船寄港時には、地元寿司組合が考案した「飛鳥丼」（三陸海鮮ちらし寿司）を振舞ったり、飛鳥大テント村（飛鳥ポスター展示、飛鳥パンフレットの配布、飛鳥グッズの販売） ・物産展示即売会、写生会、観光案内所開設 ・日本酒の試飲、海産物炭火焼試食コーナー ・小学生アトラクション市内の小学校5校でヨサコイ、合唱、ブラスバンドによる出し物	・小学校による和太鼓、ねぶたばやしグラスバンドによる歓送迎 ・NPO法人や地元商店街による食材や工芸品の即売会 ・海上保安部の船による放水での出迎え	・小学生が海岸（港ではなく）からハンカチを振る送迎（舞鶴） ・地元産品の物産展、即売会（函館・舞鶴・小松島） ・阿波踊り（小松島）、いか踊り（函館） ・ブラスバンド、和太鼓、よさこい等によるアトラクションによる歓送迎（函館・舞鶴・小松島）
ソフト面での取組	・「長崎さるく」と組み合わせたツアー（団体型でない長崎観光の普及が目的。長崎の名所や古くからの路地や町並みを観光する方のために便利な地図やお得な入場券のセット等を用意。「さるく」はぶらぶらと歩くことを意味する。） ・日常の生活を垣間見られる路地裏ツアーなど45本の市内散策コース、うち33本はガイド付きコース ・外国語で最低限の案内のできるガイドの育成。（主に留学生） ・商店の看板に外国語を入れてもらう ・長崎らしい、港、平和、開国から近代化への長崎の役割を見せるツアー（開発中）	・漁師さんとのふれあいツアー。漁師と乗客がウニ等の魚介類をとり一緒に調理をして食べたり、漁船で遊覧（民間による企画） ・大船渡市では市長が7月22日を「飛鳥の日」に制定（飛鳥IIの国内の横浜→大船渡→横浜航路は、乗客が最も楽しみにしているルートの1つであり、大船渡で市民の大歓迎を受けるため常にこのクルーズは完売。） ・アスカふれあいスポーツ、アスカふれあいカルチャー、アスカふれあいマーケット等市民とふれあう企画を提案 ※市役所が毎年ボランティアを募集して活動	・乗客へパンフレットを配布 ・外国からの客船の寄港時には外国語が話せるボランティアによる案内 ・青森市やNPO法人が船社に売り込み	・「はこだてクルーズサポータークラブ」が、歓送迎や観光案内を実施。同団体は、HPや広報誌で募集して市民中心の団体であり、会員には限定見学会、運航会社からのツアー情報の提供（函館） ・主婦が地元の美味しい店を紹介するツアーを提案（函館） ・リピーターが増えており、観光名所案内だけでなく市民と触れ合える市内観光案内の充実を考えている（舞鶴・小松島） ・NPO法人やボランティアによる案内（外国人にも対応）（函館・舞鶴・小松島）

クルーズ船の釧路港入港予定（Ｈ２０）

入出港日時 入港日 入港時間	入出港日時 出港日 出港時間	曜日	船名	運航者	船籍	航路	総ﾄﾝ数 (G/T)	長さ (m)	船舶代理店	利用岸壁	旅行代理店
6/23 10:00	6/23 18:00	月	ふ じ 丸	日本ﾌｨｰﾀｰｸﾙｰｽﾞ	日本	広島～石巻～釧路～石巻～神戸	23,235	167.00	三ッ輪運輸	中央埠頭3号	石巻信金
未定	未定		MARINA SVETAEVA	Aurora Expeditions	ロシア	釧路～国後～クリル～ペトロパブロフスク			-	-	-
7/22 9:00	7/22 17:00	火	飛 鳥 Ⅱ	郵船クルーズ	日本	横浜～釧路～大船渡～横浜	50,142	241.00	三ッ輪運輸	中央埠頭3号	（自主ｸﾙｰｽﾞ）
9/9 8:00	9/10 19:00	火/水	ぱしふぃっくびいなす	日本クルーズ客船	日本	横浜～釧路～両津～佐渡	26,518	183.40	三ッ輪運輸	中央埠頭3号	（自主ｸﾙｰｽﾞ）
9/17 8:00	9/17 17:00	水	飛 鳥 Ⅱ	郵船クルーズ	日本	横浜～釧路～函館	50,142	241.00	三ッ輪運輸	中央埠頭3号	ＪＴＢ東日本
9/23 8:00	9/23 19:30	火・祝	飛 鳥 Ⅱ	郵船クルーズ	日本	宮古～釧路～宮古	50,142	241.00	三ッ輪運輸	中央埠頭3号	カワトクトラベル
9/26 8:00	9/26 19:30	金	飛 鳥 Ⅱ	郵船クルーズ	日本	青森～釧路～青森	50,142	241.00	三ッ輪運輸	中央埠頭3号	東奥日報社
9/27 8:00	9/27 17:00	土	SPIRIT OF OCEANUS	インターオーシャン	BAHAMAS	ユジノサハリンスク～クリル～釧路～塩釜	4,200	80.15	三ッ輪運輸	中央埠頭4号	

は、未確定

計　8隻

今年度の取り組み

供用開始は平成23年の予定
今から出来ること？
↓
寄港時の『おもてなし』の取り組み（練習）
↓
9／23入港の「飛鳥Ⅱ」で実施
↓
実行委員会の立ち上げ
↓
皆様の参加はWELCOME！！

今年度の取り組みの問い合わせ先

釧路開発建設部
　築港課　根本、松本　TEL 24-7000(内3361)

釧路開発建設部　釧路港湾事務所
　第1工事課　飯田、石山　TEL 51-4381

釧路市港湾空港部
　港湾計画課　岸本、伴　TEL 53-3374